



星布尼句集

中村俊定文庫
文庫 18
634





羊驛榎大家好
 俚詠號松原庵呈布
 元稱絲明窓樂六十
 年一日先是五六七
 年春秋庵白雄綬舊
 號即今菴號也其好



樂之久〇ニキ詠稿堆積〇ス男
喚之請刻以傳焉實
後進領袖也

癸丑之秋武陽峽北
津戸管為貴識



多したう改めしむるに
しそちあるとよき色か
志と誠守りてしむるに
あり給ふは仕へ下り
初学下りしむるに
志誠とのとちしむるに
志誠とのとちしむるに
志誠とのとちしむるに

解のしよとせざるをあたひてこまひ
る所への時よりぬれぬとて心もたこ
さそぬとて板よりたゞ法を何とせし
言ひぬるよりの人よきとて昔はた
まふとていまだりてあるあふぬり
寛政五年のころに逢長月むすべし
の五子なる榎中望之志あり



星布尼句集のまはり哉

しらばきのふしは清國のふし
海はやまは始のふし
ねをねんぬらふふし
たのふし
あふし
ふし
ふし
ふし
ふし
ふし

門のまはり
はは
中
ふし

上 1
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

主佐日記ふりかへしはるあまの
あまのちかま馬の節會

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

并は... 園梅の... 女... 松... 柳...

女柳

... 梅を... 柳... 女... 柳...

里... 門... 柳...

昌門柳

多... 柳... 女... 柳...

鹿毛滝

滝のよ... 柳... 女...

画賛

... 柳... 女...

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~


古江、那
也

一決

那
那
古
那

乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃
乃

乃
乃
乃
乃

乃

まののちのちのちのち

江崎法樂

海へ渡るよりのちのちのちのち

尾山の七段とくくくく

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

ちのちのちのちのちのちのち

世とくくあまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな
あまのこころのちか
いけりな

あまのこころのちか
いけりな

上
下

まやみやみ人草のうらみはるる人の
ふかき水も澄みゆく

浮盤のうらみはるる
澄みゆく

移りし會やしらぬさうらみ
垣中やうらみ車に葉を
掃

山の草のうらみはるる

やうらみしるる鷹の餅り
山のやうらみはるる人の
はるる

山ありや葉のうらみはるる
垣中やうらみはるる人の
はるる

うらみはるる
葉

うらみはるる
葉

うらみはるる
葉

尾崎のうらみはるる
葉のうらみはるる
葉

まのうらみはるる
葉

つら／＼と枝をさし木のさき枝を削

樹いささら

鄙うびや樹り層う／＼家もろ家
樞戸や／＼鳴りを控のるさ
雛の雛をさし／＼もささるさ
雛の家をさし／＼い／＼汁／＼子
叶の戸や／＼／＼／＼／＼雛の家
／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼

と／＼／＼

新く／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼

高志のさし／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼
岐のさし／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼
ら／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼
あ／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼
さ／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼

登台嶽

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

折

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

あまのこころをよそよそと

高尾山眺望

上三
多きしきもあふのりし御山々歌

多きしきもあふのりし御山々歌
多きしきもあふのりし御山々歌

多きしきもあふのりし御山々歌

多きしきもあふのりし御山々歌

藤の花

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

し

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

あけやほろほろに松の藤

リヤキ云云

不心題

其下... 境の事

海に...

其下... 法

夕濱や...

磯の...

海堂...

津戸氏の書

おろ...

しら...

主多...

雜

ひ...

茶標...

衣の

年の衣の給り那

七の衣の更に衣

人の衣の給り那
七の衣の更に衣

衣の給り那

鳥醉翁二十面忌

衣の給り那

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

おのゝ 響

天保

けふは色め月あや持ちん
 ちかきりかきつるのま
 かしらしやはる月の
 のしほひのほろほろと
 二のどかきつるのま
 のあはれとほろほろと
 ちかきりかきつるのま
 のしほひのほろほろと

ちかきりかきつるのま
 のしほひのほろほろと

ちかきりかきつるのま
 のしほひのほろほろと

ちかきりかきつるのま
 のしほひのほろほろと

天保

くらよつとるの縁のゆかり
ほろほろと目もくらげの如く
啼きもやと蓋夢のうらむ魂
まよひとる夢の如くや
かゝりて夢の如くや
独りよもよもよとる夢の如く
よもよもよとる夢の如く

夢中の記

子規のうらやまの如く
はらけの如く
まよひの如く
かたがはの如く

よもよもよとる夢の如く
かたがはの如く

かたがはの如く
よもよもよとる夢の如く
かたがはの如く
かたがはの如く
かたがはの如く

船... 如... 可... 也

市

崎や切... 人... 也

布... 種

本榭... 陽 雀

此水... 也

何... 利

... 利... 也

三川海船

水... 別... 也

号人... 中... 也

桂男... 也

夜... 也

... 也

... 也

11

海星の海
色蒼蒼の海
———の海
———の海
———の海
———の海
———の海
———の海
———の海
———の海

~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~の~~~~~

馬草の~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

辛~~~~~の月  
鳥~~~~~の月

秋鶴 雀

月遠まお~~~~~の雀  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

上  
五  
十

ち〜昔や童よ〜  
白〜  
ふ〜

何層

桜戸や樹〜  
何層〜

魚橋 魚抄

橋〜

多〜  
鬼齒乃糸や蒸〜  
昔〜  
おの道〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜  
〜

井〜

不白の糸

上  
五  
十



~~~~~  
花の庭花の戸じす~~~~~
~~~~~  
五月の月夜を思ひてある花の影の~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

うきほろろおぼろろ人づから

うきほろろおぼろろ

燕さきさきおぼろろおぼろろ

雨麗翁の千載のこころ

うきほろろおぼろろおぼろろ

夕顔や梅さきさきの若さうきほろろ

夕顔や梅さきさきの若さうきほろろ

夏の夜 後あま

五月のさきさきおぼろろおぼろろ  
富士と人づから出さるるの浦乃  
あまのこころ

夏の夜おぼろろおぼろろ

舟に渡るおぼろろおぼろろ  
さきさきおぼろろおぼろろ  
はるの夜おぼろろおぼろろ

文科やうきほろろおぼろろおぼろろ

うきほろろおぼろろおぼろろ

うきほろろ

さし  
山と空や初めを  
白く  
青く

涼  
夕  
風

晴の

全川

海  
お  
河

氷室

氷室

負く

水きりー定井の水も真氷り  
ふりやう得敵のこほ 續

こほりし ね息

りきりきりきりの櫛さかーきりきりし

船きりきりきりきりきりきりきりきり

こほりし

りきりきりきりきりきりきりきりきり

りきりきりきりきりきりきりきりきり

不分題

水きりきりきりきりきりきりきりきり

おほりきりきりきりきりきりきり

水きりきりきりきりきりきりきりきり

水きりきりきりきりきりきりきりきり

水きりきりきりきりきりきりきりきり

こほりきりきりきりきりきりきり

何れも心よき——

月さし——帳のひくくの寝る所

二國橋と彫前

筑波松乃ちいさくはま 海哉

品浦海島と海松橋

長柳中——

芝師を破着の多葉とてぬて  
勢々のいとおもふけのくしる間かよ  
——  
——  
——

おのきや多し何となくおのきや

おのきや魂入る夜の月  
らぬやと備おん——  
——  
——  
——

おのきや多し何となくおのきや

おのきや多し何となくおのきや

おのきや多し何となくおのきや  
——  
——  
——  
——  
——  
——  
——  
——

いふはまのうきうき つかひのうきうき  
 つらうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき

あゝあゝー百合いも咲ききぬら那

いふはまのうきうき つかひのうきうき  
 つらうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき

いふはまのうきうき つかひのうきうき

星布尼句集まほしたて

いふはま

いふはまのうきうき つかひのうきうき  
 つらうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき

いふはま

いふはまのうきうき つかひのうきうき  
 つらうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき  
 つかひのうきうき つかひのうきうき

相うけ人——  
相うけ人——  
相うけ人——

菊

蘭の香——  
蘭の香——  
蘭の香——

桐葉

うらな——  
うらな——  
うらな——

うらな——  
うらな——  
うらな——  
うらな——  
うらな——  
うらな——

桐葉

うらな——  
うらな——  
うらな——  
うらな——  
うらな——

幸牛花 ちんちん

朝霧の影を掃くも海に非  
何れもあはれなるに秋も  
朝霧の影を掃くも海に非  
幸牛花やあはれなるに秋も  
朝霧やちんちん掃くも海に非  
ちんちん

秋

朝霧の影を掃くも海に非  
何れもあはれなるに秋も  
朝霧の影を掃くも海に非  
ちんちん

朝霧の影を掃くも海に非  
何れもあはれなるに秋も  
朝霧の影を掃くも海に非  
ちんちん



さきさきのうらなひのうら

けさやまのうらなひのうら

梅書

うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ

露

さきさきのうらなひのうら

梅のうらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ  
うらなひのうらなひのうら  
梅はさかゆきまのうらなひ

芭

下  
日

泣く人よ 風をよほす音も 那  
可なり 唐のすまじき 那  
よも 人のまじき 那

紫山子

あはれよ 人のまじき 流  
船のすまじき 哉  
可なり 人のまじき 魂のまじき  
日のまじき 人のまじき

梅もみぢ

まじき人のまじき  
まじき人のまじき

結ぶ人よ 人のまじき 那  
まじき人のまじき 那

馬蹄

馬蹄引板のまじき 那  
まじき人のまじき 那

角力

音ら子乃〜里於心  
於〜於の聲は〜  
乃〜丁〜角力  
〜沙 未定

江戸〜事〜  
浦の〜

月

あ〜

〜  
名目〜

〜

名目〜  
名目〜

武野中二白

〜

下六

リ 七 中 へ あり 月 の 中 へ へ へ

あ げ げ げ げ げ げ

あ げ げ げ 月 観 望 舞 之 家 一 の 心 へ へ

名 雄 ち 人 の 海 中 へ へ へ へ へ へ  
其 心 に 披 け へ へ へ へ へ へ へ へ  
あ げ げ げ げ げ げ げ げ げ げ

月 へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ へ

行 書

あ げ げ げ げ げ げ げ げ げ げ 遠 へ へ

物 へ へ 月 行 望 望 望 望 望 望 望 望

月 行 望 望 望 望 望 望 望 望 望 望

既 望

あ げ げ げ げ 望 望 望 望 望 望 望 望

あ げ げ げ 月 へ へ へ へ へ へ へ へ

の 日 月

あ げ 月 望 望 望 望 望 望 望 望 望 望

あ げ 月 望 望 望 望 望 望 望 望 望 望

既 望

新編の徳人きしむるに

尾

酒一斗一石もさるるに  
味老き多き一お筆もあつた  
きよきやはしむる筆もあふ  
はくしむる筆もあふ  
りあつた筆もあつた

新編の徳人きしむるに  
尾

新編の徳人きしむるに  
味老き多き一お筆もあつた  
きよきやはしむる筆もあふ  
はくしむる筆もあふ  
りあつた筆もあつた

新編の徳人きしむるに  
尾

今更にこれに  
 一ののちのち  
 一ののちのち

雲のこゝろ

雁

曉や平のこゝろ  
 秋の原のこゝろ  
 暁や平のこゝろ  
 秋の原のこゝろ  
 暁や平のこゝろ  
 秋の原のこゝろ

今更にこれに  
 一ののちのち  
 一ののちのち

雲のこゝろ

燕

老く腰きうんうん

あつひの黄昏ハ断れぬ

心

此は～や狭義道平く～此の事  
石ノ痛ハ～ハ

此  
等

りく～や人高～の空戸楯  
いん～

か  
か

清いの中も～  
富の尾よ～  
ちはきよ

心

座帯～  
座帯～  
石心や座

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ  
杜のあけしきこえは杜のあけしきこえ  
庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ  
杜のあけしきこえは杜のあけしきこえ

秋の風

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ  
杜のあけしきこえは杜のあけしきこえ

秋の風

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ

秋の風

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ

秋の風

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ

秋の風

庭のあけしきこえは庭のあけしきこえ



暴風 柳

神風十浪もきり帝の御もくろく  
龍舟出のちもくろく帝の御もくろく  
昔暮やはくろく二の昔と野からく  
流柳や風おきくろくのまくろく  
流柳くろく柳の葉くろく

柳の心

流くろく家の碇は波のくろく

くはねきくろく膝くろくか瘦 男  
只いり柳 おと枯れくろく自枯くろく  
くはね枯れくろく流くろくか

龍舟の心

龍舟よまの在の尾のくろく  
龍舟くろくあくろくか  
龍舟くろくやまのくろく

龍舟の心 昔

花居のきき子の陸海よりそのあし  
つせこなきききひなつこ

十一

かたきふ せきふ しんか 喜楽

ふ雄家のなまきかき

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ しんか 喜楽

とや 鴨

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ しんか 喜楽

萬 推

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ せきふ しんか 喜楽

かたきふ

十一

あつたてのうらみ

しつぱりしたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

ふく題

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

あつたてのうらみ

新正の月〜河〜其風の筆

雲海の心

〜素の筆〜  
〜心〜

〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜  
〜心〜

花の心

泥借歌仙

静に坐すてはるる水の流るる

星布

いよのあやまのふゆのま

白雄

るるのまのまのまのま

布

鳥居子の静とていふは静とて

雄

下共

里のしほをさるるふらふら  
雄布

市にりりりるの作し  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

やうのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

さるるのしほをさるる  
雄布

下にしほのぼろろと流る中  
きりぎりすはむちくのね  
うしとてはこもる小所寺  
人もらるゝあゝさくや  
あまほ舞うあまがの終塚  
宮津迄——も鷹山のつ  
世の中は鏡のやうにうつら  
あまの湯の熱まのあまらる

雄布 雄布 雄布 雄布 雄布 雄布

日遠きあ——あまの湯のつ  
賽馬のまろりらく  
うか麻のむあまらしきつ圃  
まゆらるゝあまらるゝ  
身の死を新調地の舟よりと  
うららあまらるゝあまらるゝ  
鯉のまあまのあまらるゝ  
うららあまらるゝあまらるゝ

雄布 雄布 雄布 雄布 雄布 雄布

下  
十八

|    |     |
|----|-----|
| 星布 | 十八句 |
| 白雄 | 十八句 |

可

枝の戸を〜  
 およぶらあさひあはれを時雨迄  
 川にさすけを〜  
 雲の舟乃〜  
 海の時を〜  
 犬のさすけを〜



わらわりのうた  
のうた  
わらわりのうた  
のうた

雲のうた

わらわりのうた  
のうた  
わらわりのうた  
のうた

雲のうた

わらわりのうた  
のうた  
わらわりのうた  
のうた

雲のうた

わらわりのうた

雲のうた

わらわりのうた

雲のうた

雲のうた

わらわりのうた  
のうた  
わらわりのうた  
のうた

雲のうた

~~~~~

~~~~~

霜

楓橋秋夜のうた

あゝ~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

あゝいふにやまゝにふたね 棋 子

あゝおとすにやまゝにふたね

あゝの山 ちやうど

名取といふにやまゝにふたね
あゝおとすにやまゝにふたね
あゝおとすにやまゝにふたね

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど
あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

あゝの山 ちやうど

るはるるるるるるるるるる
the the the the the the the the
the the the the the the the the

世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは
世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは

るはる

世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは
世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは

るはるるるるるるるるるる

世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは
世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは

世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは
世のふれは 世のふれは 世のふれは 世のふれは

るはるるるるるるるるるる

おのりしと路は、修むたのき

旅ハ 雲

まよひのしるしは、さかすかのこゝろ

旅をまよひたれど、はるまじくおのり
都のしるしは、おのり乃おのり

旅 雲

旅をまよひたれど、はるまじくおのり

まよひのしるしは、さかすかのこゝろ

風あしとらんと、おのりのしるし
旅をまよひたれど、はるまじくおのり

こゝろ 水

こゝろのしるしは、さかすかのこゝろ
旅をまよひたれど、はるまじくおのり
都のしるしは、おのり乃おのり
こゝろのしるしは、さかすかのこゝろ
旅をまよひたれど、はるまじくおのり

世や安んずるにまじりてのこころを

野村 三巻

この野村のちりての野村にまじりてのこころ

武蔵野のちりての野村にまじりてのこころ
野村のちりての野村にまじりてのこころ

この野村のちりての野村にまじりてのこころ

この野村のちりての野村にまじりてのこころ

この野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村 三巻

野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村 三巻

野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村 三巻

野村のちりての野村にまじりてのこころ

野村のちりての野村にまじりてのこころ

漢解の氷とて——山葵の味
味は和糖の味とて——

山葵とて 薑黄

山葵とて——味は和糖の味とて——
味は和糖の味とて——

措 河

新——措——風——
味は和糖の味とて——

味は和糖の味とて——

雪 福

味は和糖の味とて——

味は和糖の味とて——

味は和糖の味とて——

味は和糖の味とて——

福 味は和糖の味とて——

Handwritten notes in the right margin of the right page, including the number '12'.

Main handwritten text on the right page, written vertically in cursive.

Handwritten text on the left page, starting with 'た'.

Small handwritten notes or corrections on the left page.

Handwritten text on the left page, starting with 'は'.

田文

Handwritten text on the left page, starting with '権'.

Small handwritten notes on the left page.

Handwritten text on the left page, starting with '遠'.

Handwritten text on the left page, starting with 'あ'.

あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句
あはれ 寒さ 二句

あはれ 寒さ 二句

籠のつらさ 糸のつらさ 以て中なる
世の中 糸のつらさを 籠のつらさ

蝶のつらさ 湯のつらさ

於て世のつらさを 籠のつらさ
糸のつらさ 糸のつらさを 籠のつらさ

籠八

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

年一〇三三

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

籠のつらさを

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

籠のつらさを

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

籠のつらさを 籠のつらさを 籠のつらさを

江戸のくさくさ

し

年...
...
...
...

春を...
...

鶴...
...

琴...
...
...
...

松露庵前身翠翁者俳門之一宗師近芝
歌仙也其門有星布法尼者盖一奇女也此
集者即法女之所詠而春秋菟白雄翁之所
揀也而翁已去矣法手與翁相善嘗屬梓録
之草烏今將有刻之乃取枯管因憶二翁之歡笑
於法何有之御而有共臨於藍御之窓者也歎
寛政五癸丑初六

鴻臺效藍御跋



嶮嶮峒峒峒峒峒
 集雖曰俚詠秀惡
 之鍾其有人哉
 其々秋江都鳩
 孔平信敏題
 男信龍書

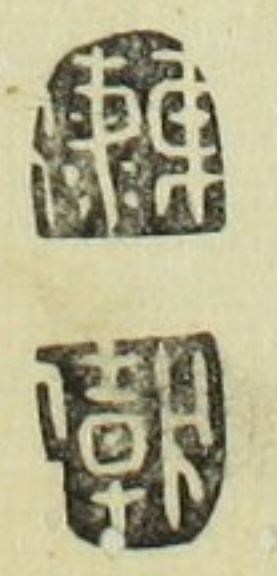


世の中の心も身を首の松糸何れ松糸を縁と頌歎
 あふ衆しいふ浦鯨洲のいみへく先任を解の
 播成り来りてあふくくくくくくくくくくくくくくくくく
 早ふぬやうにせと如く人衆はあふくくくくくくくく
 あい此の心もあふくくくくくくくくくくくくくくくくく
 生ひぬきわくはあふくくくくくくくくくくくくくくくくく
 庵もあふくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

高き山に生るる松の葉は
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり
ふゆの松の葉に似たり

天明八年癸卯八月

長谷川儀



書林

江戸本町三丁目

西村源六

京二條法華町西口

兼舎太兵衛

武八王子八幡町

賣所

長谷川儀

